

入曽地区における子育て支援拠点施設 を考えるワークショップを開催しました (報告)



狭山市では入間中学校跡地（狭山市南入曽433番地）を活用し、入曽地区における子育て支援拠点施設等を整備する取組を進めております。

取組を進めるにあたり、子育て世代を中心とした皆様と一緒に「こんな子育て支援拠点施設があったら良いな」を考えるワークショップを開催いたしました。

全3回のワークショップが終了いたしましたので、参加者の皆様からの意見等を報告いたします。

<ワークショップの概要>

- 1 テーマ 「みんなで考える新しい子育て支援拠点施設」
- 2 日時
第1回 令和元年8月24日（土） 13時30分～15時40分
第2回 令和元年9月7日（土） 13時30分～15時40分
第3回 令和元年9月21日（土） 13時30分～15時30分
- 3 場所 狭山市立水野保育所（狭山市水野632 - 41）
- 4 参加者 計85名
（内訳 第1回26名、第2回33名、第3回26名）
- 5 ファシリテーター
学校法人武蔵野学院 武蔵野短期大学 副学長 野村 和氏
- 6 事務局
狭山市役所 福祉こども部
入曽地区子育て支援拠点等整備プロジェクトチーム

新しい子育て支援拠点施設にあったら良いなと考えること
～ワークショップを通じて出た意見から狭山市への提言～

1 子育てに関する相談機能

- (1) 妊娠期から子育て期までの幅広い相談に対応できる。
- (2) 保育所や児童館の利用者に限らず、在宅で子育てする地域の家庭も相談できる。
- (3) 気軽に立ち寄って相談できる雰囲気がある。

2 子育て世代等の居場所

- (1) 親子で話しや軽食等ができる図書コーナー
- (2) 子育て世代の居場所として利用でき、飲食が可能なフリースペース
- (3) 雨の日でも遊べる運動スペース
- (4) 小中学生・高校生の学習の場

3 一時預かり保育機能

- (1) 気軽に申込みができて利用できる。

4 世代間交流の場

- (1) 入曽地区地域交流施設（仮称）利用者との日常的な交流ができて、世代間交流ができる。



各回の内容と参加者からの主な意見

第1回 テーマ「子育てに関することを考えてみよう」

1 内容

(1) ワークショップの目的、子育て支援拠点施設の整備に関する取組の説明

(2) ワークショップ

- ①子育てに関して普段感じていること、②課題だと思われる・思うこと
- ③子育て支援拠点施設にあったら良いなと考える内容

2 主な意見（施設にあったら良いなと考える内容）

- ・相談対応の充実（妊娠期から子育て期まで、幅広い相談についての対応）
- ・広い園庭、雨の日でも遊べるスペース
- ・スムーズに送り迎えをするための駐車場と周辺道路
- ・児童・保護者向けの本が充実していること（図書コーナー機能）
- ・クリニック、病児保育
- ・保護者がリフレッシュ・交流できる施設（スポーツジム、クッキングスタジオ）
- ・地域の方や異なる世代（高齢者）との交流機会
- ・パパの交流の場（イベント・おむつ替えスペース）
- ・一時預かり保育機能
- ・体験型事業（茶摘み体験、芋掘り体験）
- ・食事（100円ランチ）の提供

第2回 「地域の中の子育て支援拠点施設を考えてみよう」

1 内容

(1) ワークショップ

- ①地域の人々が集まる施設にするには、②子育てに関して地域の理解を深めるためには、③一か所で用事が解決すると良いなと思うことは

2 主な意見

(1) 地域の人々が集まる施設にするには

ア 中高生に向けて

- ・飲食物、Wi-Fi、電源設備の充実、お洒落な雰囲気
- ・ボランティアによる学習支援
- ・図書コーナーの充実（マンガ・子ども向け図書）

イ 地域の子育て世代に向けて

- ・食事の提供
- ・気軽に相談できる場・体制（専門家等）
- ・地域の子どもも使える遊具、運動できる場（屋内・屋外）

ウ 地域の方々に向けて

- ・誰でも自由に使えるフリースペース、夜間帯のスペース活用
- ・朝市などのイベント開催

(2) 子育てに関して地域の理解を深めるためには

- ・交流スペースの設置
- ・ボランティア等を通じた子育て支援拠点施設との関わりの創出
- ・多世代が交流できるイベントの開催、子育て支援拠点施設の情報発信

(3) 一か所で用事が解消すると良いなと思うことは

- ・日常生活に関すること（ATM、カフェ、パン屋、コインランドリー、宅配便）
- ・医療に関すること（クリニック・病院、薬局）
- ・行政機関（公的証明書取得、申請手続き）

第3回 「新しい子育て支援拠点施設を考えてみよう」

1 内容

(1) 前提条件の再確認

法令上の制限 「第1種低層住居専用地域」

ア 建築物の高さ制限 10m

イ 建物の用途制限(例)

①建てることのできないもの

スーパー、ゲームセンター、スポーツジム、飲食店、病院、事務所等

②建てることのできるもの

住宅、学校・保育所等の公共施設(児童館は600㎡以下)等

(2) ワークショップ

入曽地区の新しい子育て支援拠点施設にあったら良いなと思うことについて、狭山市へ提言できるかたちでまとめてみる。

2 主な意見

(1) 子育て支援拠点施設に必要な機能

- ・ 妊娠期から子育て期までの幅広い年齢に応じた相談ができる。
- ・ 専門家に相談することができる。
- ・ インターネットによる相談予約や一時預かり保育の予約ができる。
- ・ 一時預かり保育の利用時間が柔軟である。
- ・ 病児保育、子どもの病気についての相談ができる。

(2) 子育て世代等の居場所として必要な場所

ア 図書コーナー

- ・ 親子が気軽に活動・話ができ、静かにしなくてもよい雰囲気である。
- ・ 軽食や飲食をしながら本を読むことができる。
- ・ インターネットによる貸本の予約ができる。
- ・ 定期的な本の入れ替えがされている。

イ サロン・フリースペース

- ・ 小中学生、高校生の勉強の場・学習支援(ボランティアによる)の場として使える。
- ・ 子育て世代がテレワーク等ができる場(WiFiや充電設備)として使える。
- ・ 目的が無くても居場所として活用できる場になる。
- ・ ルールが緩やかである(例:飲食ができる。静かにしなくてもよい。)
- ・ 床暖房・子どもが寝転がれるような床・ベビーベッドがある。
- ・ パーテーションで区切ることができる。
- ・ 食べ物・飲み物の販売機が設置されている。

ウ 運動スペース

- ・ 雨天でも遊ぶことができる。
- ・ インストラクターによる遊び・運動の指導がある。
- ・ ボールプール・プチアスレチックがある。
- ・ 保護者等がヨガやストレッチに使える。

エ その他

- ・ 多世代の交流として、入曽地区地域交流施設(仮称)と行き来ができるような動線の確保や高齢者と子どもが交流する仕組み(イベント・日常交流)がある。
- ・ 子育てに関する情報コーナーがある。
- ・ 色々な人が集う場所を想定した場合、警備員の配置等の安全対策がされている。

- (3) 施設・設備等で必要と考えるもの
 - ・ 父親が子どものおむつ替えをすることができる設備
 - ・ 個人使用ができるロッカー
 - ・ 災害時における自動販売機と携帯電話の充電源の開放
 - ・ ベビーカー置き場、バリアフリー等ベビーカーで移動できるような配慮
 - ・ 狭山茶が飲める飲料サーバー
- (4) その他
 - ・ 入曽地区地域交流施設（仮称）への見学会を実施し、子育て支援拠点施設との連携可能性についてより考えていきたい。
 - ・ 全ての人が関わるための懸け橋となるような施設になると良い。
 - ・ 入曽といえばココと言われるような施設になると良い。

第1回目から第3回目までのワークショップにおける 意見のまとめについて

第1回目から第3回目までのワークショップを通じ、参加者の皆様よりいただきました多くの意見から共通するキーワードを抽出し、まとめました。

これを提言として、大切に受け止め、今後の入曽地区における新しい子育て支援拠点施設の整備により良い形で反映できるよう努めてまいります。

1 子育てに関する相談機能

- (1) 妊娠期から子育て期までの幅広い相談に対応できる。
- (2) 保育所や児童館の利用者に限らず、在宅で子育てする地域の家庭も相談できる。
- (3) 気軽に立ち寄って相談できる雰囲気がある。

2 子育て世代等の居場所

- (1) 親子で話しや軽食等ができる図書コーナー
- (2) 子育て世代の居場所として利用でき、飲食が可能なフリースペース
- (3) 雨の日でも遊べる運動スペース
- (4) 小中学生・高校生の学習の場

3 一時預かり保育機能

- (1) 気軽に申込みができて利用できる。

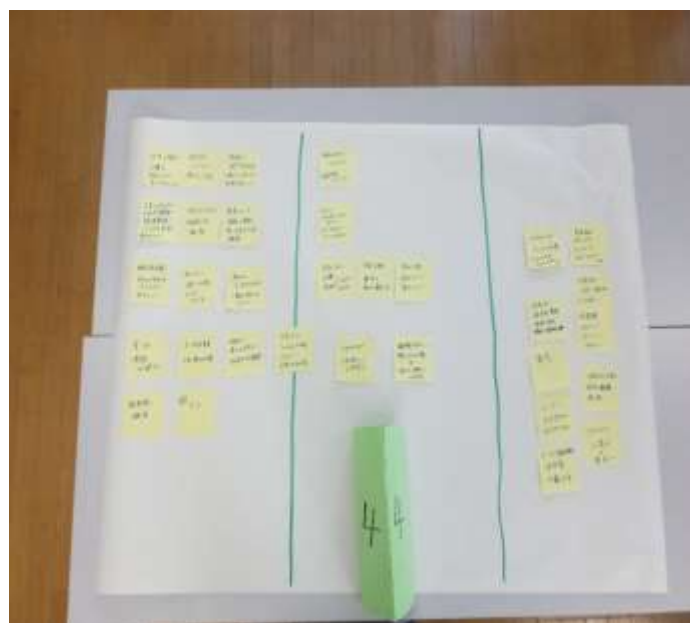
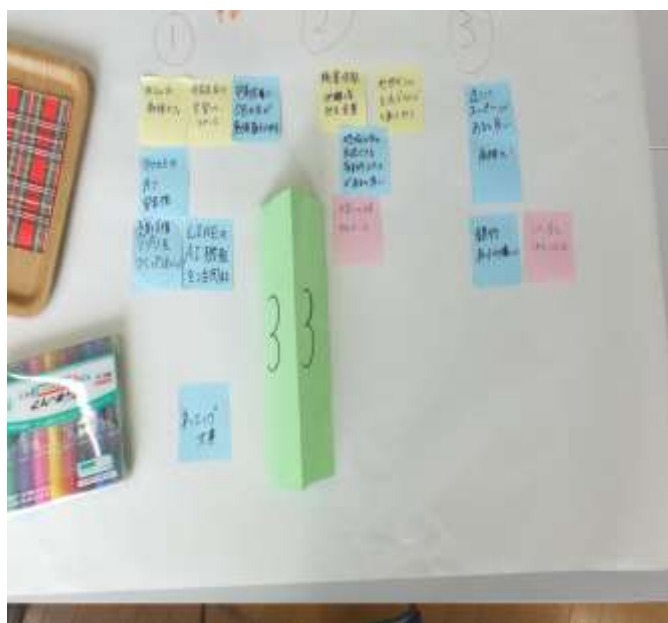
4 世代間交流の場

- (1) 入曽地区地域交流施設（仮称）利用者との日常的な交流ができて、世代間交流ができる。

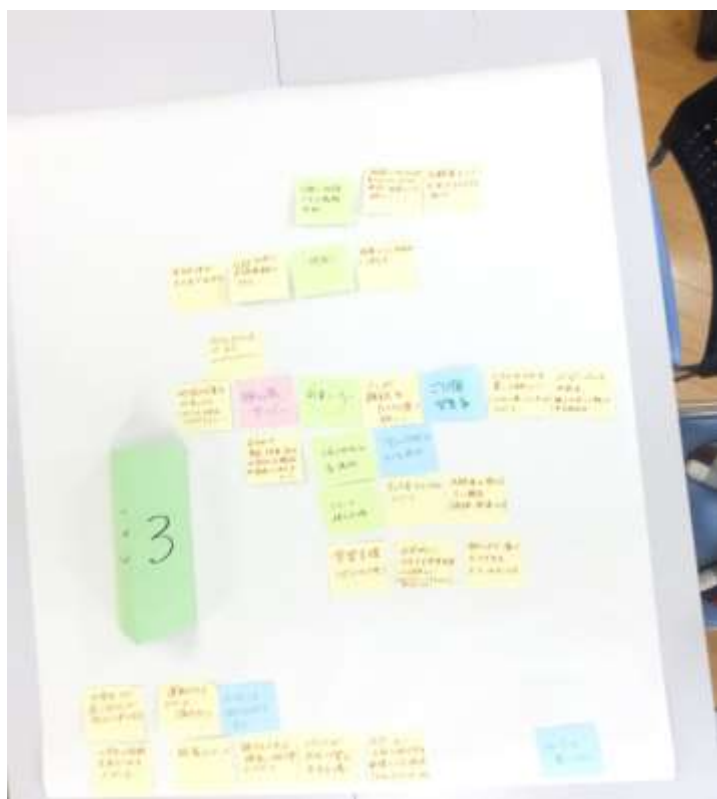
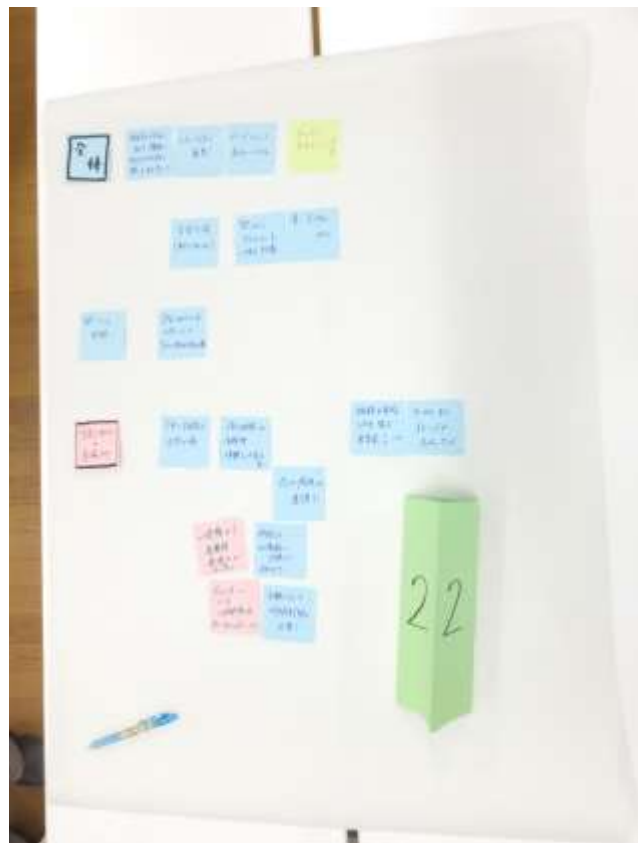
ワークショップの参加者からの意見（模造紙）（第1回目）



ワークショップの参加者からの意見（模造紙）（第2回目）



ワークショップの参加者からの意見（模造紙）（第3回目）



～結びに～

○ファシリテーター 武蔵野短期大学 副学長 野村 和

全3回のワークショップは、「子育て支援拠点施設に求められるもの」という共通のテーマを持ちながらも、子育て世代のニーズや課題を捉えただけではなく、子育てを支援する地域コミュニティをどう創生するかという点にまで議論が及ぶ充実したものとなった。

多様な立場の参加者で行ったグループディスカッションでは、自分たちの問題意識が共有されたり、新たな視点が提供されたりする中で、現状の子育て支援の課題が具体的な経験をもとにした言葉で浮き彫りになり、グループごとに付箋を貼りつけた模造紙上に可視化されていった。

このワークショップで心がけたのは、子育て支援への要望が不満や不足分の確認で終わらないことである。

当該施設の整備の中で、すべての要望をかなえることは不可能であることを承知のうえでなお、新たな事業をきっかけにして、未来志向かつ長期間的視野で「子育てしやすい地域コミュニティ」のイメージを参加者で議論してもらいたかった。

結果として、先述した子育て支援の課題に対して提案された解決手段は、実現可能性の高いものが多く出されただけでなく、「こうなってほしい」、「こうありたい」という希望にあふれた、まさに理想の支援拠点施設の姿が目標として提案された。

(次のページへつづく)



<前のページからのつづき>

目標（ゴール）はあくまで理想である。

しかしながら、そのゴールが示されることで見える目の前の課題もある。

ゴールが希望あふれて実現困難であるからこそ、そこへの道筋を語る時には喫緊の課題だけではなく、少し幅をもつリクエストも言葉にできる。

ディスカッションを通して、まずは現実には捉われすぎない多くの意見を、ある意味「無責任」に発言してほしいというファシリテーターの思いは、熱心な参加者に十分に伝わったと感じている。

その上で、今回のワークショップの目的である「入曽地区子育て支援拠点等の整備」という実際の事業で着手可能、実現可能な市民の意見を提言とさせていただいている。

狭山市において、今後も子育て支援や地域づくりは重要なテーマとなるであろう。

そうした議論を進めていく際に、今回のワークショップで出されたイメージが土台となって、より高い次元へと議論が深まりながら、より良い狭山市の姿へとつながっていくことを期待するものである。

○事務局より

（狭山市 入曽地区子育て支援拠点等整備プロジェクトチーム）

今回のワークショップを通じて、参加者の皆様から新しい子育て支援拠点施設にあったら良いなと思うことについて、積極的かつ前向きなご意見をいただきました。

全3回のワークショップを通じて、皆様からいただきました貴重なご意見を参考とし、より良い形で子育て支援拠点施設に反映できるよう努めてまいります。

参加者の皆様、ワークショップにご参加いただき、ありがとうございました。

<ワークショップに関するお問い合わせ先>

狭山市 入曽地区子育て支援拠点等整備プロジェクトチーム

電話 04-2953-1111（内線1621）

FAX 04-2955-2099

E-mail kyoten@city.sayama.saitama.jp